

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都西東京市住吉町 3-14-14
園名	すみよし保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「想像力と表現力」遊びをとおして絵本の世界をイメージしよう。

<テーマの設定理由>

毎日過ごす中で絵本は環境の一部となっている。語りかけてもらう、個々に、少人数で、集団で読んでもらうほかに一人で読む。

その繰り返し子どもたちの豊かな想像力につながっていく。日頃のお遊びの中にイメージしたことを取り込んで楽しむ姿からテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

春から、子ども達の興味に合わせて、様々な絵本を、繰り返し読み聞かせをしてきた。

11月 ストーリーのある絵本から、子どもたちの自由な発想で、好きな遊具を使い、ごっこ遊びを楽しむ。

12月 「大きな紙でお絵描きしたい！」という子どもの声から、大きな模造紙に、フィンガーペインティングや、筆、クレヨンで描く等、ダイナミックな表現活動を経験する。

1月 絵本の世界に入り込み、自分達で様々な用具を使い、試しながら、劇遊び等の表現活動から、別の遊びが展開される。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

11月 おふろをイメージした歌を歌う、エバーフォーミング、おふろのおけ、

12月 模造紙、絵の具、スタンプ、筆、クレヨン

1月 ままごとハウス、縄跳び、お風呂マット、三角コーン、バー、砂場用玩具

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 11月 「もりのおふろ」の絵本を読み、歌を歌い、友だちとのやり取りを楽しむ。「もりのおふろ」のお話から、連想するものを自由に表現して遊ぶ。
- 12月 「くれよんのくろくん」の絵本を見て、大きな紙を用意する。お絵描きを通して、絵の具、クレヨン、スタンプなど、様々な素材を自由に組み合わせ、自分なりの発見をしながら楽しむ。
- 1月 「さんびきのこぶた」を見て、園庭に出る。お話の世界を表現することや、ごっこ遊びが広がり、自分たちなりの発想で試したり、新しい遊びにつなげる等、活動が豊かになる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【11月】

おふろごっこをしながら、子ども達は身体を洗うまねをしていた。大型積み木を見つけた子が、おふろ作りを始めると、「かわいいおふろ」「三角屋根のおふろ」「滑り台付き」等、おしゃべりをしながら、様々なアイデアが出され、お風呂の形が変化していく。しばらくすると、「これじゃあ、ちいさくてみんなで入れないよ」と、気付く子がいた。「どうする?」と、みんなで考えながら、「大きいおふろにしようよ!」と、大型積み木を全て使い、大きなおふろ作りが始まる。途中で崩れたり、パーツが足りない等、試行錯誤しながらも、最後は特大のおふろが完成した。全員で特大のおふろに入り、歌を歌いながら、お友だちと体や髪の毛を洗うまねをしながら、楽しんだ。

おふろごっこは日々の保育の中でも続き、お楽しみ会でも保護者の前で披露した。

【12月】

くれよんのくろくんを見て、「大きな紙でお絵描きしたい!」という子どもたち。ホールに大きくつなげた模造紙、クレヨン、絵の具を用意し、自由に選ぶ。はじめは汚れが気になり、控えめにクレヨンを選んでいた子どもたちも、次第に絵の具を手塗りはじめる。模造紙に手形をたくさん押す、その上から絵の具を塗る等、だんだんと豪快に描いていく。色が混ざっていく様子を見ると、「きれいーい」「見て見て、紫になった!」「オレンジになった!」と興奮気味に教え、自分で発見したことを誇らしげに報告していた。トイレットペーパーの芯で作ったスタンプは、絵の具に直接浸してみたり、筆で持ち手まで好きな色を塗って色付けし、手足に絵の具を塗ったりと、自由な発想で、のびのびと楽しんでいた。クレヨンを一気に何本も握り、大きな紙いっぱい線を描き、「わぁ見て見て!虹ができた!」と、目を輝かせ、歓喜の声をあげる子もいた。

みんなで描いた大きな作品はクラスに飾り、楽しんだ。

【1月】

さんびきのこぶたのお話を見ている時からこぶたや、おおかみのまねっこをしていた子ども達。「お庭に素敵なお家があるから、こぶたのお家ができるかな？」と声を掛けると、「ぼくはレンガのブタ！」
「先生はオオカミやって」とはりきる子どもたち。園庭に出るとさっそく「レンガのお家やろう！」と誘い合う姿が見られるが、家が2つしかないことに気がつく。「どうする？」と、担任が話すと、「わらのおうちをつくろう！」とマットを持って来る子がいる。さらにマットや縄跳び・バーなど様々な用具を用意すると、みんなで意見を出し合いながら「家」を作り始める。縄跳びを木に結んだり、コーンとバーで道を通れないようにしたり、「もっと上の方にすればオオカミが来れないよ！」等、おおかみが入ってこれない家を作るために工夫する子どもたち。そこへオオカミがやってくると、頑張って作った家を崩し、みんなで隣の家（ままごとハウス）に逃げ込む。ままごとハウスを、バケツに入れた砂とシャベルで工事し、もっと頑丈な家にするにはどうするか考える姿もあった。どうしたら砂が壁にくっつき強固な壁になるか、試す子もいた。最後は子ブタたちがオオカミをやっつけ、改心したオオカミにご馳走を振る舞い、パーティーをした。さんびきのこぶたから、レストランごっこへと遊びが変化し、楽しんだ。

【11月】



【12月】

(HP



2枚以上
ますので、



【1月】



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子ども達にとって身近な「絵本」をテーマに、表現活動から探求していくという設定をした。子どもたちは自由な発想で友達と楽しみながら、次々と素材や玩具を使い、試すことを繰り返し、絵本の世界を様々な形で表現していた。

3回とも、自分で気づいたことを周囲の人に共有したり、気づきをさらに探求することで、大人では想像がつかない遊び方に発展していた。

保育者が、子ども自身から生まれるわくわく感や、発見を受け止め、それぞれの表現の仕方に合った関わり方をすることで、子どもの想像力が広がり、更に新しい遊びに発展することを実感した。子どもの感性に寄り添い、子どもの言葉や表現を丁寧に捉えることで、探求心を深めることにつながると感じた。

子どもが向かう先を一緒に見つめ、一緒に考え、試しながら、日々の保育を行うことが、子どもたちから生まれる想像力を広げることを実感した。